

血液・腫瘍内科

1. スタッフ

科長（兼）教授 金倉 譲

その他、教授 4 名、病院教授 1 名、准教授 3 名、講師 2 名、助教 6 名、医員 13 名、病棟事務補佐員 1 名（兼任を含む。また、教授、助教は特任、寄附講座を含む。）（平成 31 年 4 月 1 日より科長事務取扱（兼）病院教授 柴山浩彦）

2. 診療内容

白血病、悪性リンパ腫などの造血器悪性疾患に対して化学療法あるいは造血幹細胞移植を中心に治療を目指した積極的な治療を展開している。当科では、自己・兄弟間・骨髄バンク・臍帯血など幅広いソースからの移植が実施可能である。また、高年齢や合併症の存在する症例の場合には、従来の移植術にかわり前処置による骨髄抑制を減弱した骨髄非破壊移植も積極的に施行している。さらに、難治性貧血や止血異常疾患の治療にも積極的に取り組んでおり、特に特発性血小板減少性紫斑病（ITP）や血小板無力症などの血小板異常疾患の診断・治療に優れた実績を挙げている。このように、血液疾患全般にわたる幅広い疾患を対象として日常診療を行っているが、細胞表面抗原解析・染色体解析や発がんに関わる遺伝子などの解析を個々の症例で行った上で、最新のエビデンスに基づいた最良の治療法を選択するよう心がけている。

新規薬剤臨床試験（治験）や全国レベルで行われる医師主導型臨床試験の責任・分担病院として積極的に参加しており、新しい治療戦略の確立に取り組んでいる。さらに、本院と関連病院（20 施設）が協力して医師主導型臨床研究を行うための組織（HANDAI Clinical Blood Club）を構築し、観察研究を中心としたいくつかの臨床研究をおこない、得られた新しい情報を世界に向け発信するよう取り組んでいる。現在、「髄液を用いた B 細胞性非ホジキンリンパ腫の中枢神経再発予測因子の検討」や「レナリドミドによる維持療法施行中の多発骨髄腫症例における免疫応答の動態の検討（MM-ID 試験）」をはじめとする 10 研究課題が進行中である。

3. 診療体制

(1) 外来診療スケジュール：内科西外来

診察室	曜日
第 7 診察室	月～金、午前、午後

第 8 診察室	月～金、午前、午後
第 9 診察室	月～金、午前、午後
造血幹細胞移植 外来	水曜日 午前・午後

(2) 病棟体制：

東 10 階病棟 39 床（完全無菌室 12 床、準無菌室 8 床を含む）。入院患者数は、一日平均約 40 名である。

スケジュール	曜日
教授回診／診療局会	月曜 午後
症例検討会	水曜 午後

研修医 1～2 名、ジュニアライター 6 名、シニアライター 2 名。2 名主治医体制にて運用している。

(3) 検査スケジュール：

骨髄穿刺や骨髄生検を、内科西外来：毎日（午前）、中央検査室：水曜（午後）にて行っている。

4. 診療実績

(1) 外来診療実績：

表 1 主要疾患外来患者数（のべ概数）（平成 30 年度）

急性骨髄性白血病	975 例
急性リンパ性白血病	382 例
骨髄異形成症候群	1,466 例
慢性骨髄性白血病	1,092 例
骨髄増殖性腫瘍（CML 除く）	1,934 例
非ホジキンリンパ腫	5,192 例
ホジキンリンパ腫	421 例
成人 T 細胞性白血病	374 例
慢性リンパ性白血病	452 例
多発性骨髄腫	1,918 例
特発性血小板減少性紫斑病	1,840 例
再生不良性貧血	1,170 例
溶血性貧血	639 例

当科外来における主要疾患のべ外来患者数（表 1）と外来での処置数（表 4）を示す。外来での患者数としては、白血病、非ホジキンリンパ腫、骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫、特発性血小板減少性紫斑病などの疾患が多い。外来で行う化学療法は、化学療法部にて行っている。

(2) 入院診療実績：

主要な血液疾患の入院患者内訳を表 2 に示す。入院患者としては外来患者数に比べ、急性白血病の比率が高くなっており、造血幹細胞移植術施行または化学療法の目的での入院が主である。

造血幹細胞移植例数は、同種移植が 24 例、自己末梢血幹細胞移植が 10 例であった（表 3）。

表 2 主要疾患入院患者数（実患者数）（平成 30 年度）

急性骨髄性白血病	45 例
急性リンパ性白血病	42 例
骨髄異形性症候群	23 例
慢性骨髄性白血病	4 例
骨髄増殖性腫瘍	4 例
非ホジキンリンパ腫	235 例
ホジキンリンパ腫	6 例
慢性リンパ性白血病	6 例
多発性骨髄腫	55 例
特発性血小板減少性紫斑病	2 例
再生不良性貧血	7 例
その他	14 例
合 計	443 例

表 3 造血幹細胞移植症例数（平成 30 年度）

血縁・骨髄	1 例
血縁・末梢血	6 例
非血縁・骨髄	10 例
非血縁・末梢血	3 例
臍帯血	4 例
自己・末梢血	10 例
合 計	34 例

(3) 検査・処置実績

表 4 外来処置数（のべ実数）（平成 30 年度）

骨髄穿刺	168 例
輸血	460 例
瀉血	92 例
点滴（化学療法・抗生剤など）	840 例
合 計	1,560 例

(4) 先進医療

発作性夜間血色素尿症（PNH）・再生不良性貧血などの造血不全症を対象に、GPI アンカー型膜蛋白の欠損血球の測定をおこなっている。

フローサイトメトリーを用いた独自の血小板無力症の診断をおこなっている。

血中トロンボポエチン濃度と網状血小板比率を独自に測定することで、血小板減少の病態解析に役立てている。

骨髄増殖性腫瘍の原因遺伝子（JAK2 遺伝子、CALR 遺伝子、MPL 遺伝子）変異、リンパ形質細胞性リンパ腫の原因遺伝子（MYD88 遺伝子、CXCR4 遺伝子）変異、ヘアリーセル白血病の原因遺伝子（BRAF 遺伝子）変異を研究室で解析し、正確な診断に繋げている。

成人 T 細胞性白血病/リンパ腫に対する新しいワクチン療法の開発に取り組んでいる。

5. その他

日本血液学会研修施設、骨髄移植財団登録施設

国際間骨髄バンク・骨髄採取実施施設

日本内科学会 認定医 26 名、指導医 9 名

日本血液学会 専門医 20 名